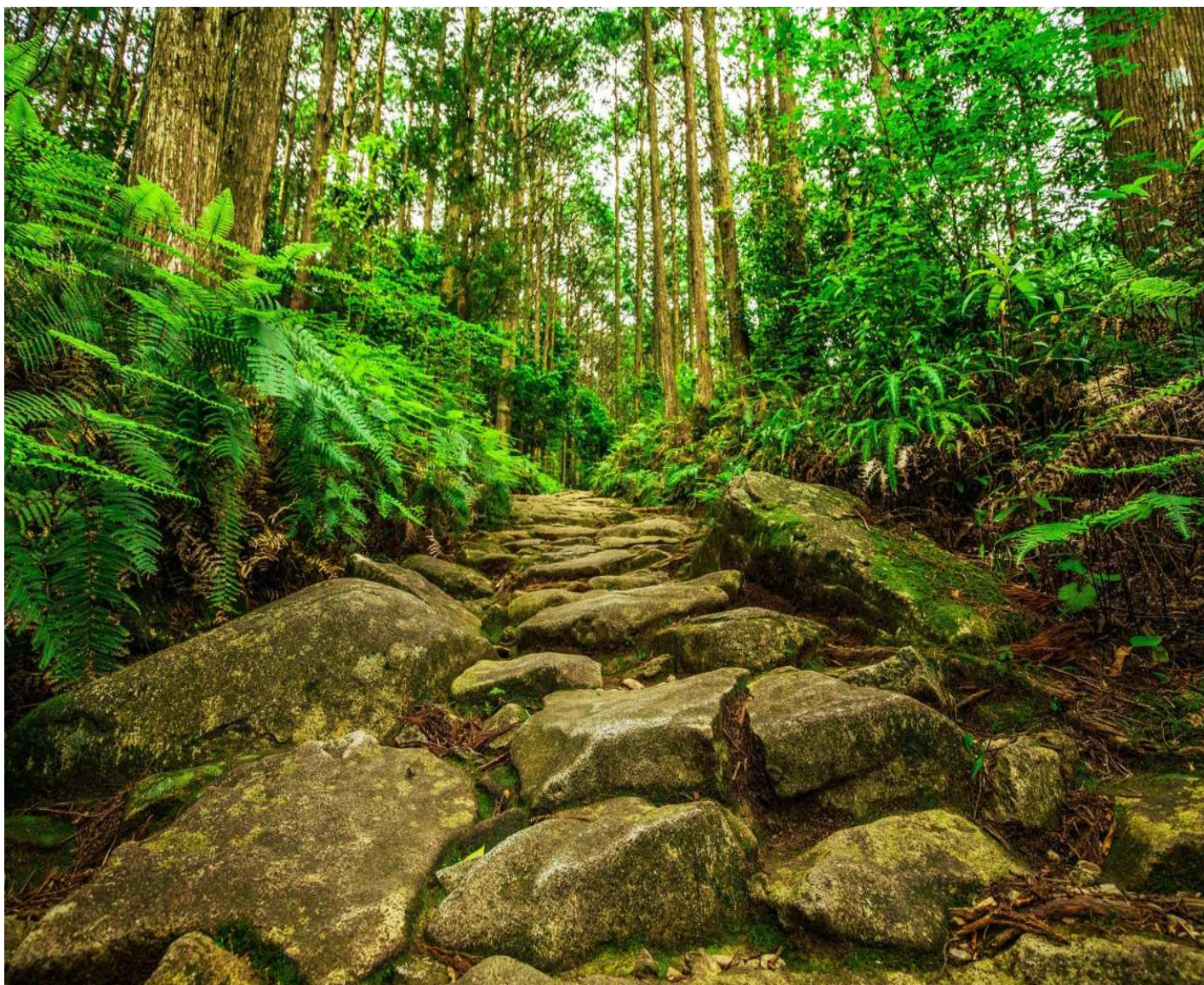


グラフで見る 熊野労働基準監督署の 安全衛生の10年(平成28年～令和7年)



熊野労働基準監督署

〒519-4324
三重県熊野市井戸町672-3

TEL 0597-85-2277
FAX 0597-85-2422

死亡災害ゼロ



アンダー100くまの



Safe work
stop! 行動災害

はじめに

三重労働局では、令和5年4月から令和9年3月までの5年間を計画期間とする第14次労働災害防止計画において、「死亡災害ゼロ」を目指すとともに、「死傷者数2,000人未満」を目標としています。

しかしながら、令和7年もその目標を達成できませんでした。このため、令和8年も、1月1日から12月31日までの期間、「死亡災害ゼロ・アンダー2,000みえ推進運動」を、また、熊野労働基準監督署では同趣旨で死傷者数100人未満等を目標として「死亡災害ゼロ・アンダー100くまの推進運動」を展開しているところです。

今般、熊野労働基準監督署管内における平成28年から令和7年までの10年間の労働災害発生状況等を取りまとめました。

「死亡災害ゼロ・アンダー2,000みえ推進運動」を達成することを目標とし、誰もが健康に働ける、安心・安全な職場環境の実現に向けた取組みに御活用いただければ幸いです。

令和8年6月

目次

	はじめに	-1-
1	死亡災害発生状況の推移	-2-
2	業種別死亡災害発生状況の推移	-3-
3	業種別死傷災害発生状況の推移	-4-
4	事故の型別死傷災害発生状況（平成28年～令和7年）	-5-
5	事故の型別死傷災害発生状況の推移	-6-
6	業種別・事故の型別・死傷災害発生状況（平成28年～令和7年）	-7-
7	業種別・事故の型別・死傷災害発生状況（令和7年）	-8-
8	年代別死傷災害発生状況の推移	-9-
9	業種別・年代別転倒災害発生状況	-10-
10	業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移①	-11-
11	業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移②	-12-
12	業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移③	-13-
13	死亡災害発生状況の詳細（三重労働局全体・令和7年）	-14-

※基礎資料 三重労働局ホームページ、労働者死傷病報告

※死傷者数は、死亡者数と休業4日以上を負傷者数の合計です。

※グラフ上の比率は、小数点第2位を繰り上げていますので、合計が100%とならないことがあります。

※新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害が含まれるものと除かれているものがあるため、

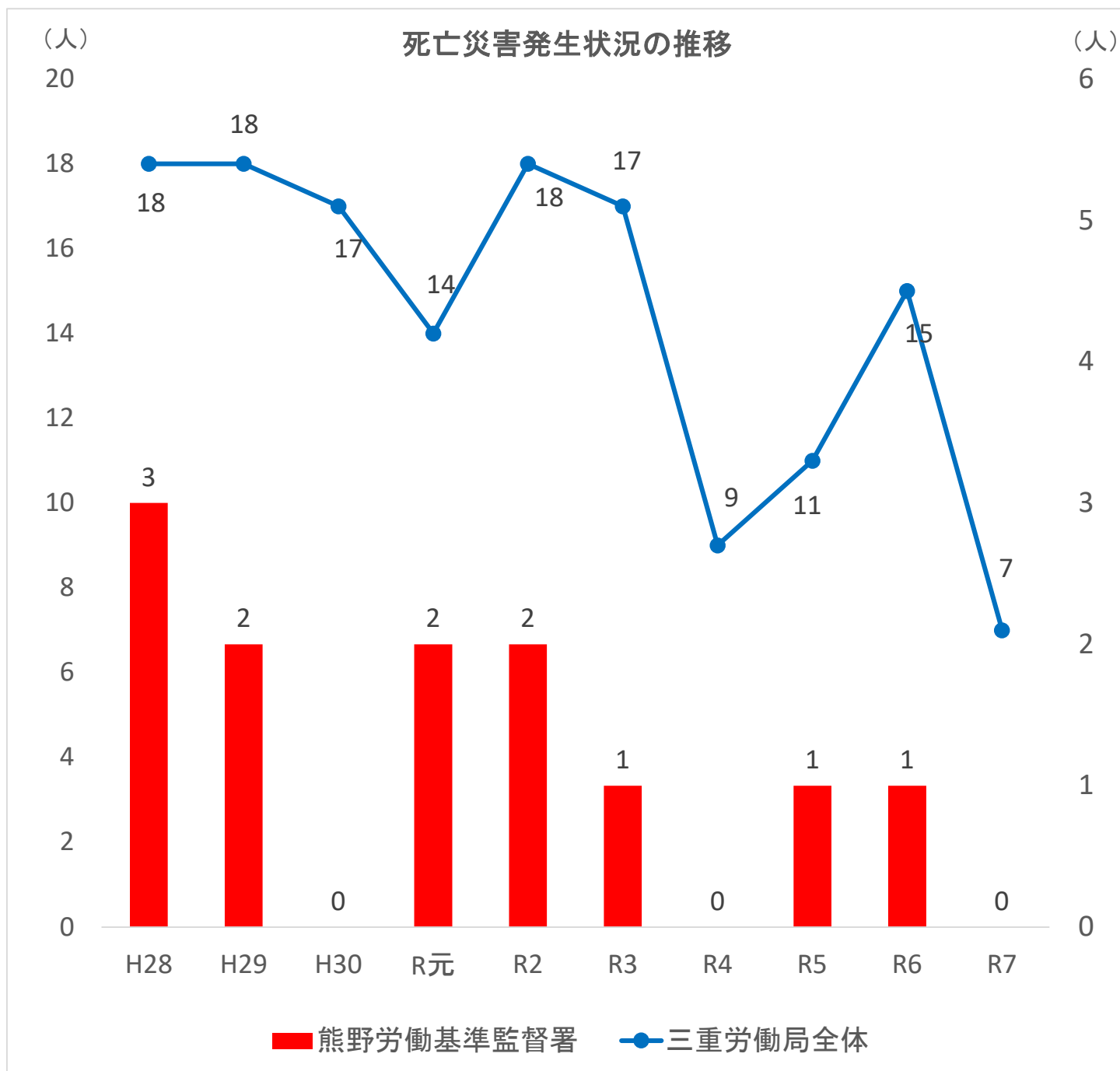
若干、数値に誤差があります。

© 三重労働局、熊野労働基準監督署

※表紙の写真 馬越峠(提供:三重フォトギャラリー)

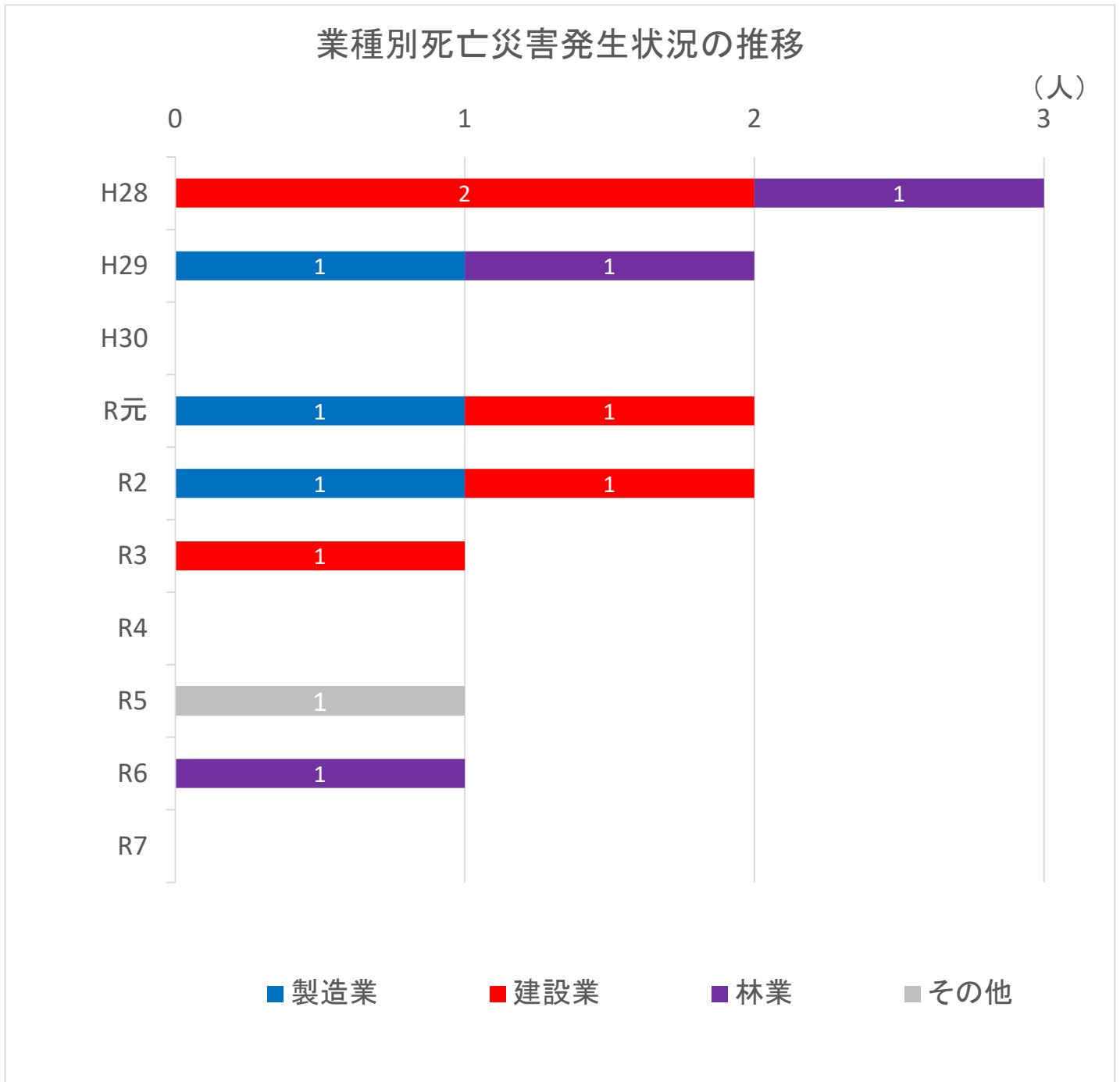
1 死亡災害発生状況の推移

死亡災害の発生状況を見ると、三重労働局全体としては増減を繰り返していますが、熊野労働基準監督署管内においては減少傾向にあり、令和7年度は2年ぶりに死亡災害が0件となりました。



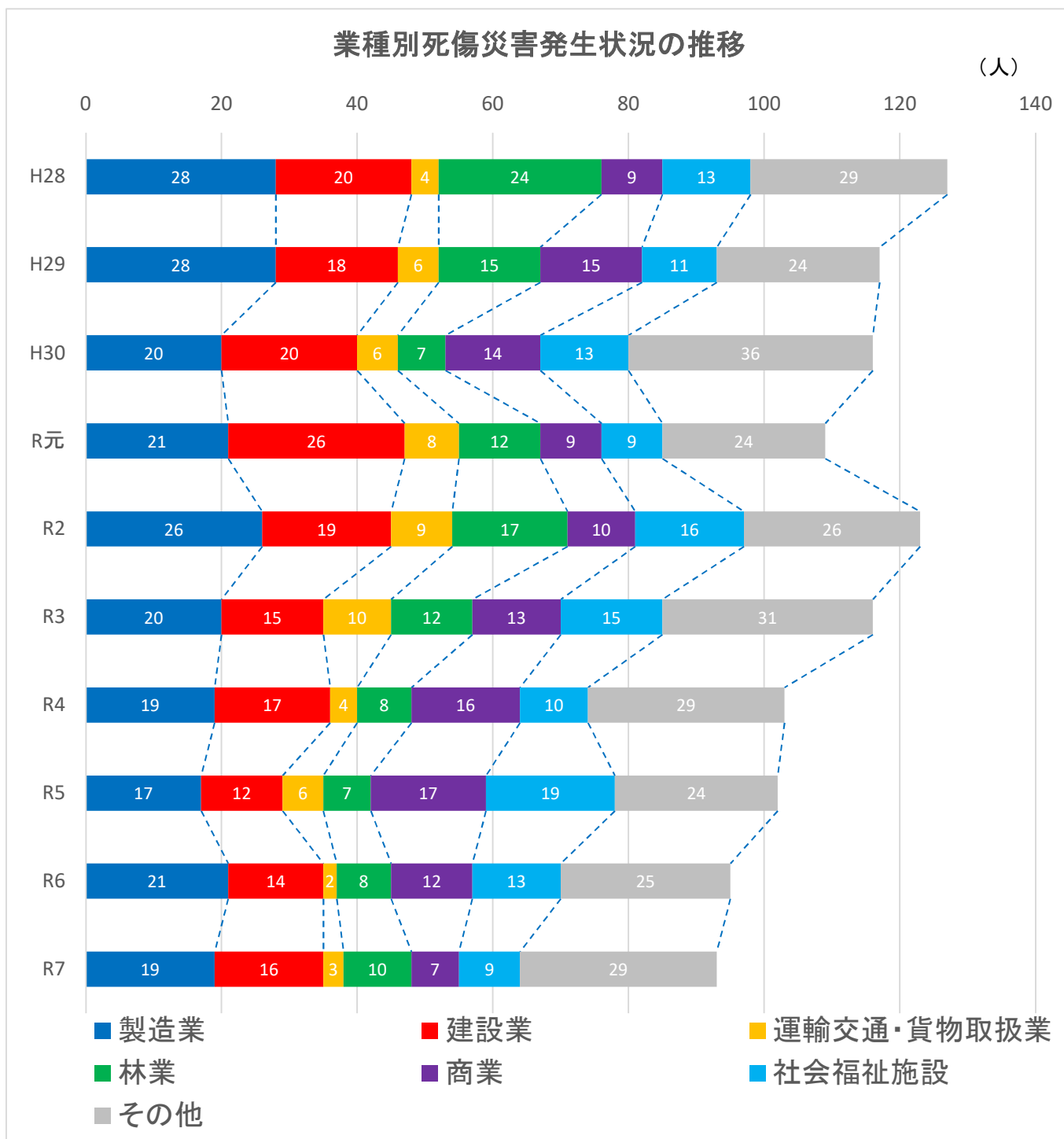
2 業種別死亡災害発生状況の推移

業種別死亡災害発生状況を見ると、以前は、「製造業」や「建設業」で多く発生していましたが、直近4年間においては0件となっています。一方、林業については、平成30年から6年間死亡災害が発生していませんでしたが、令和6年に1件発生しています。



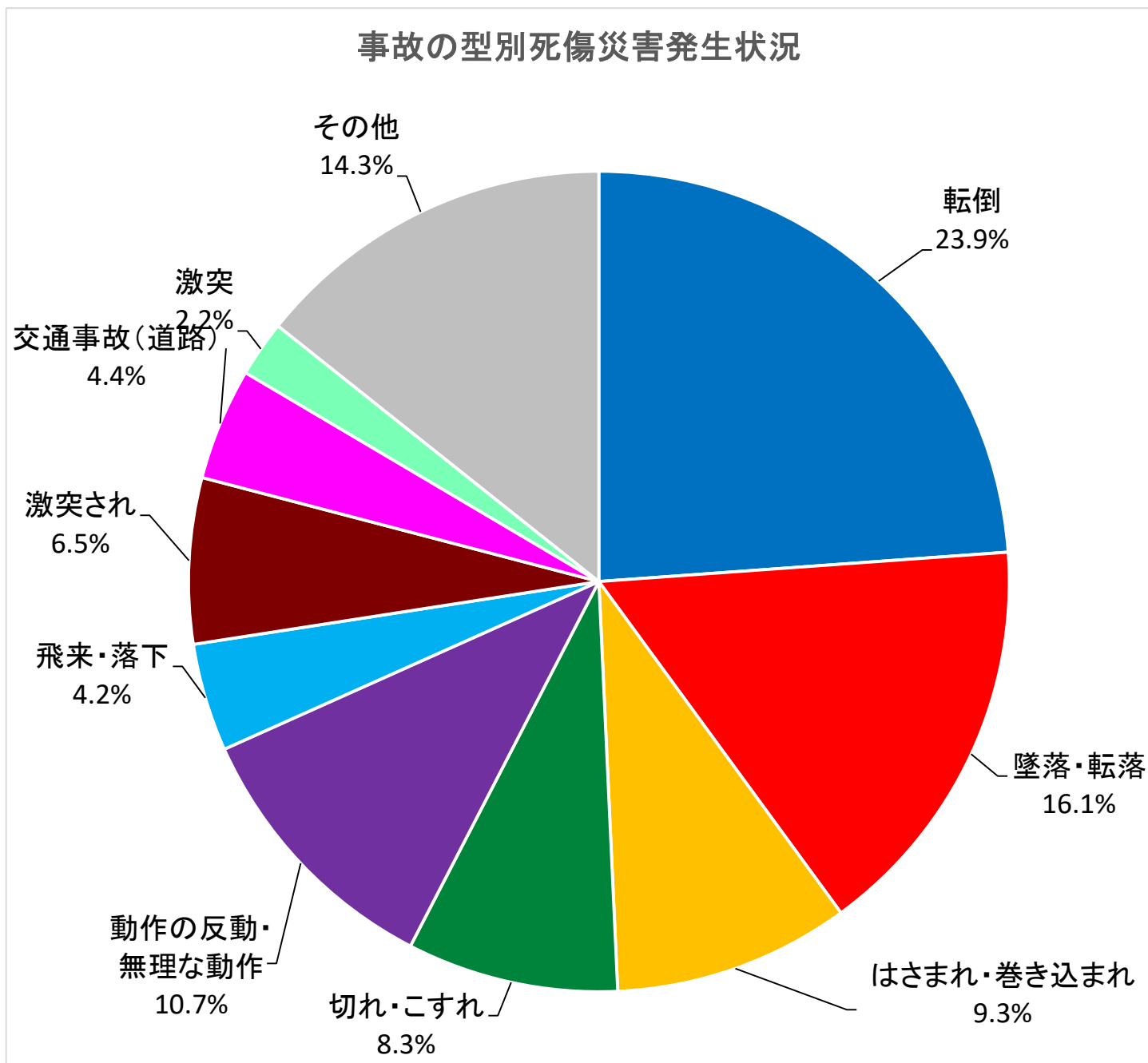
3 業種別死傷災害発生状況の推移

業種別でみると、死傷災害は依然として「製造業」及び「建設業」で多く発生しています。また、全体としては減少傾向にあるものの、直近3年間に於いては、「建設業」及び「商業」にて災害件数が増加しています。

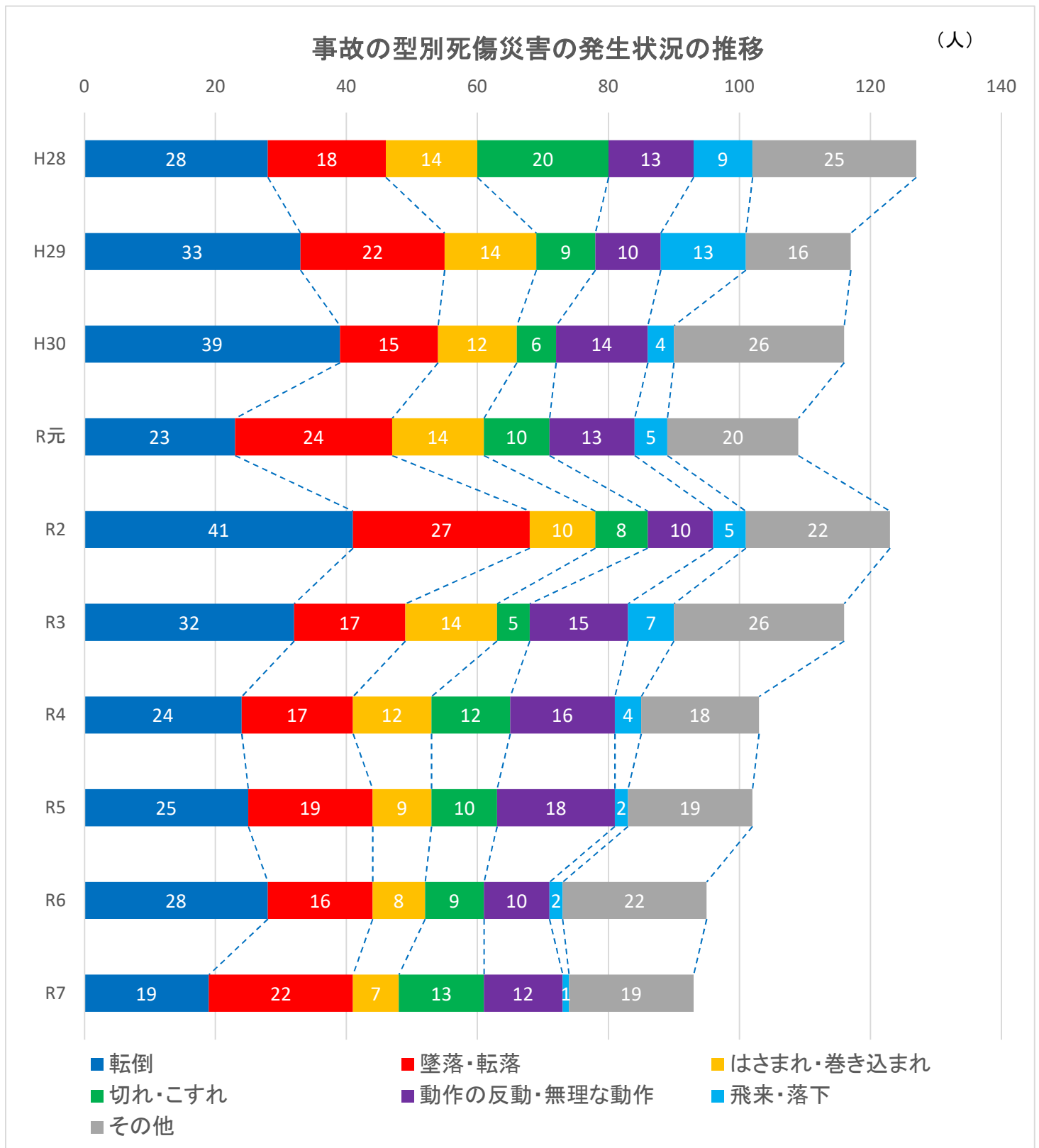


4 事故の型別死傷災害発生状況(平成28年～令和7年)

事故の型別で見ると、「転倒」が最も多く、23.9%を占めています。
また、全体では「転倒」、「動作の反動・無理な動作」と言った行動災害が3分の1以上を占めているほか、重大災害につながる可能性の高い、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」災害が4分の1以上を占めている傾向にあります。



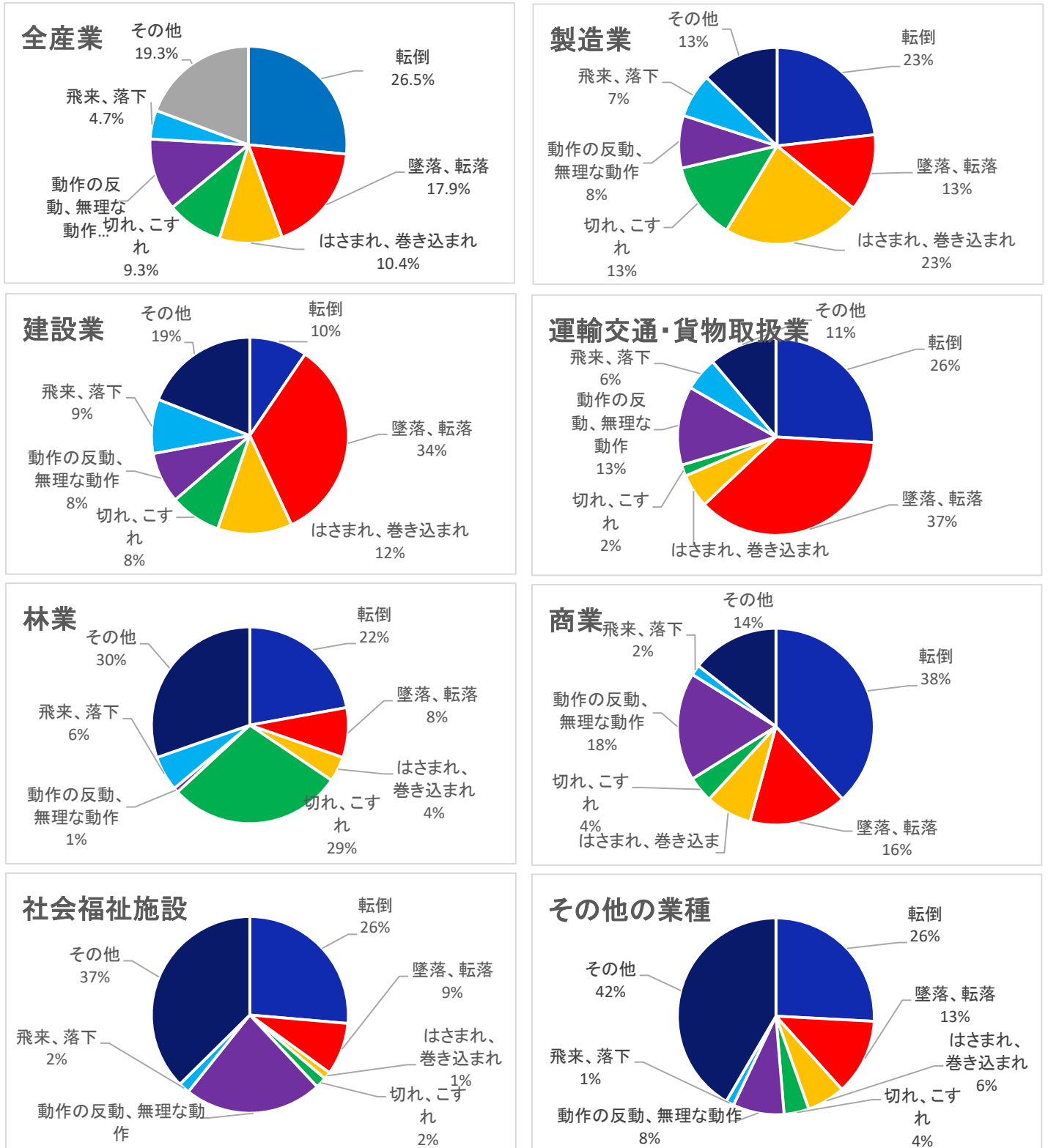
5 事故の型別死傷災害発生状況の推移



6 業種別・事故の型別死傷災害発生状況(平成28年～令和7年)

事故の型別で分類すると、業種によって異なる特徴が現れます。

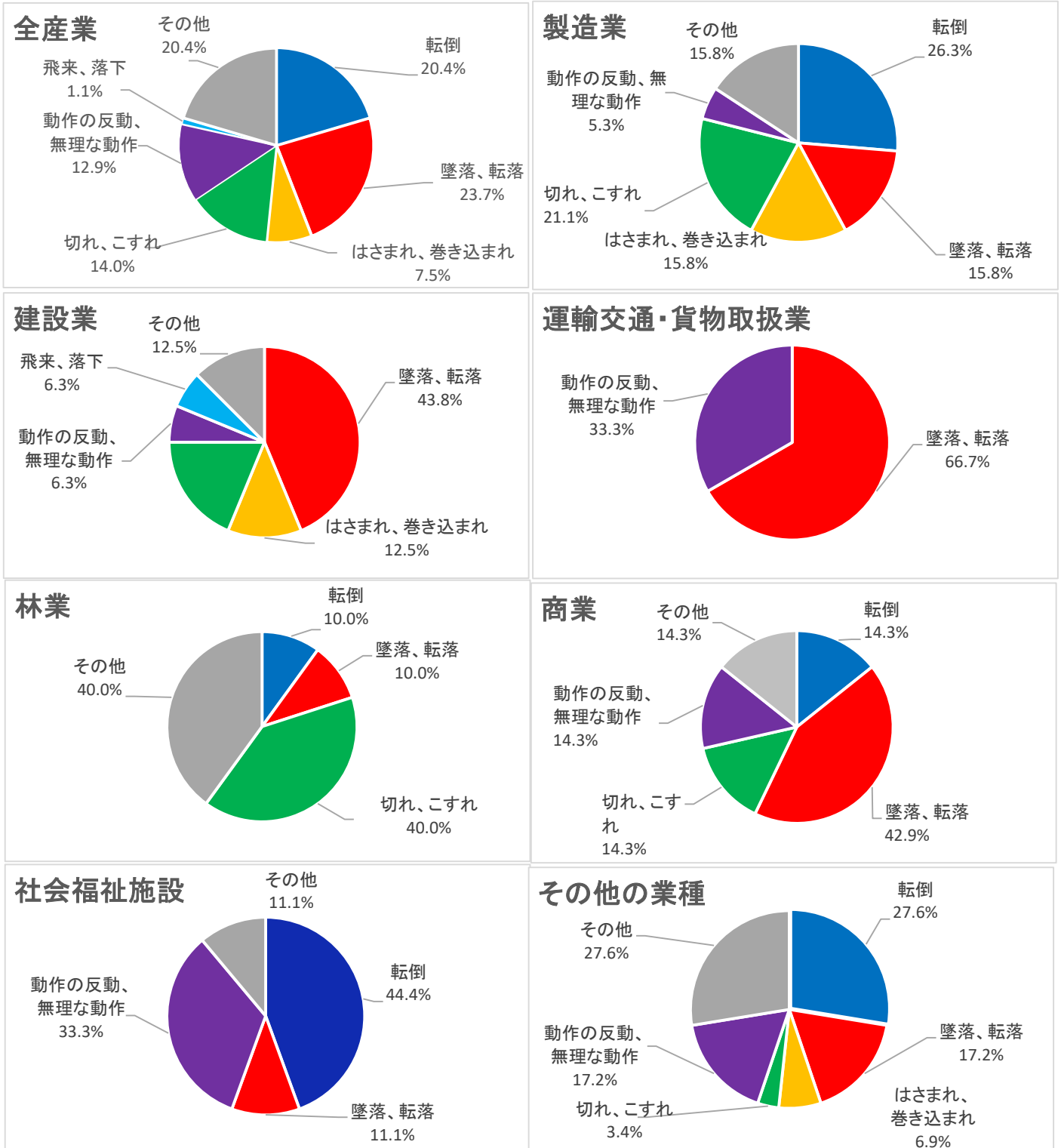
過去10年(平成28年～令和7年)では、製造業は「はさまれ・巻き込まれ」、建設業は「墜落・転落」、運輸交通・貨物取扱業は「墜落・転落」、林業は「切れ・こすれ」、商業、社会福祉施設及びその他の業種は「転倒」がそれぞれ高い割合を示しています。社会福祉施設を除き、4年前と同様の傾向にあります。



7 業種別・事故の型別死傷災害発生状況(令和7年)

令和7年では、製造業は「転倒」、建設業は「墜落、転落」、運輸交通・貨物取扱業は「墜落、転落」、林業は「切れ、こすれ」、商業は「墜落、転落」、社会福祉施設は「転倒」、その他の業種は「転倒」がそれぞれ高い割合を示しています。

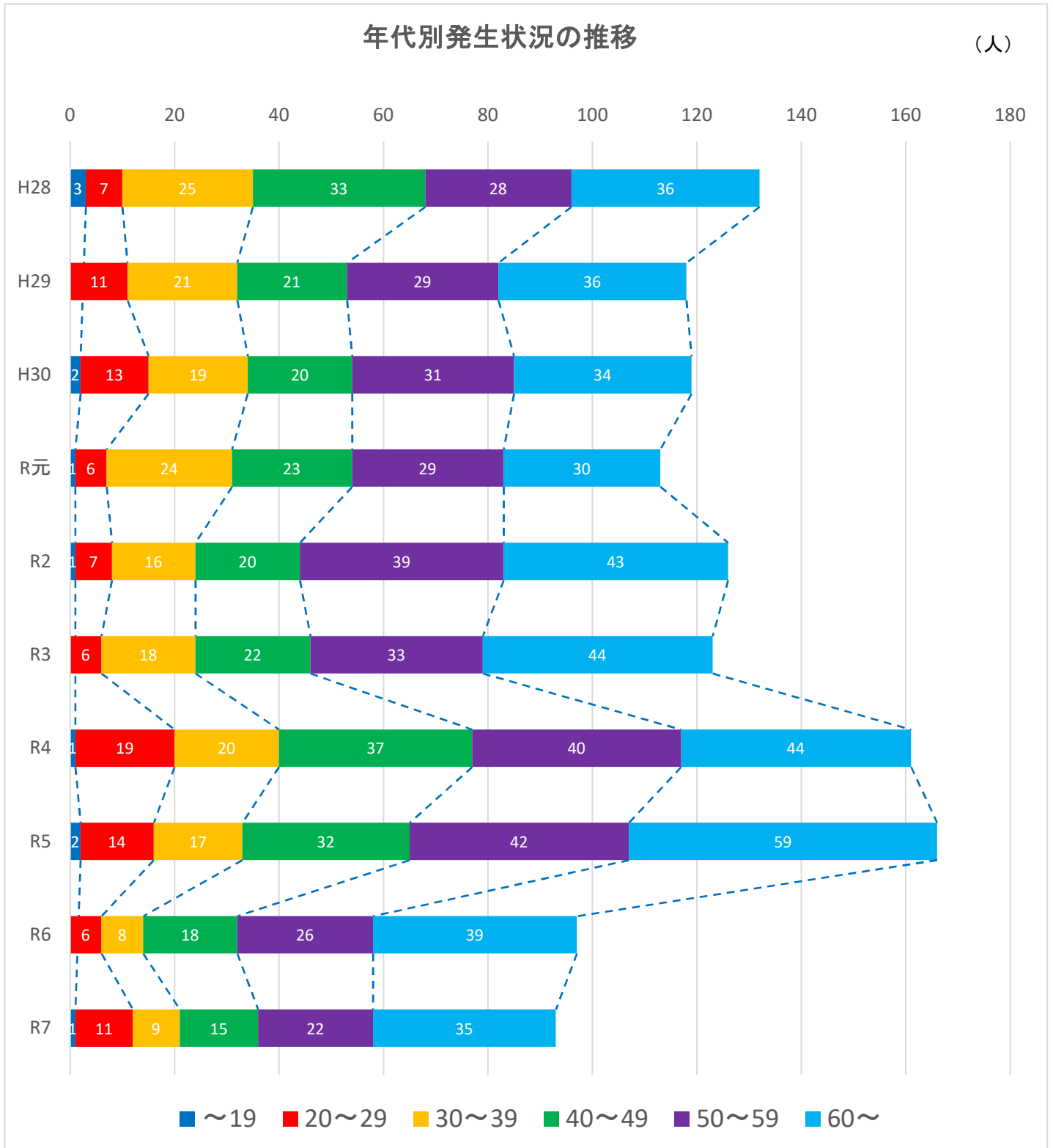
全業種を見ても、「転倒」、「墜落、転落」災害が半数近く占めている状況にあり、これらの災害を防止することが、アンダーくまの100を3年連続達成するためのキーポイントとなります。



8

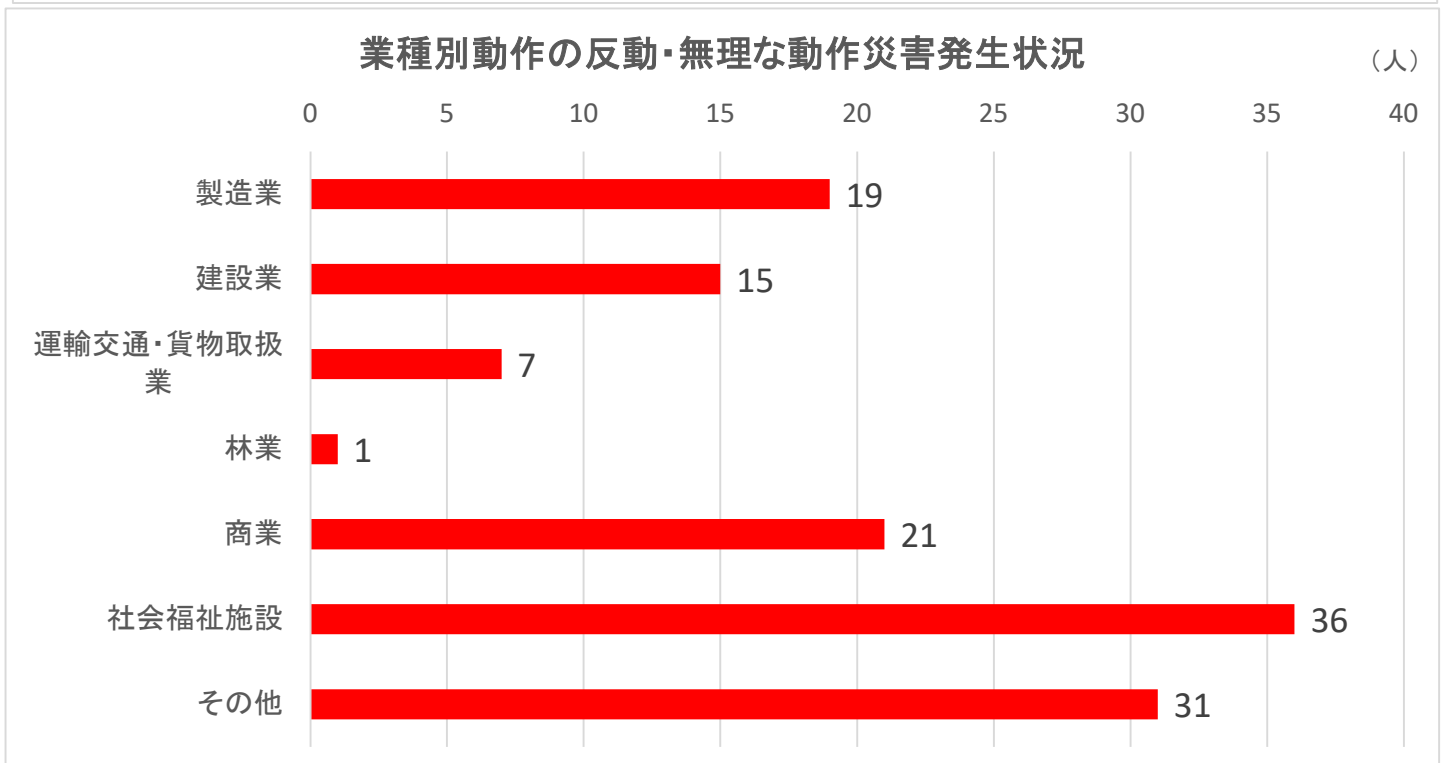
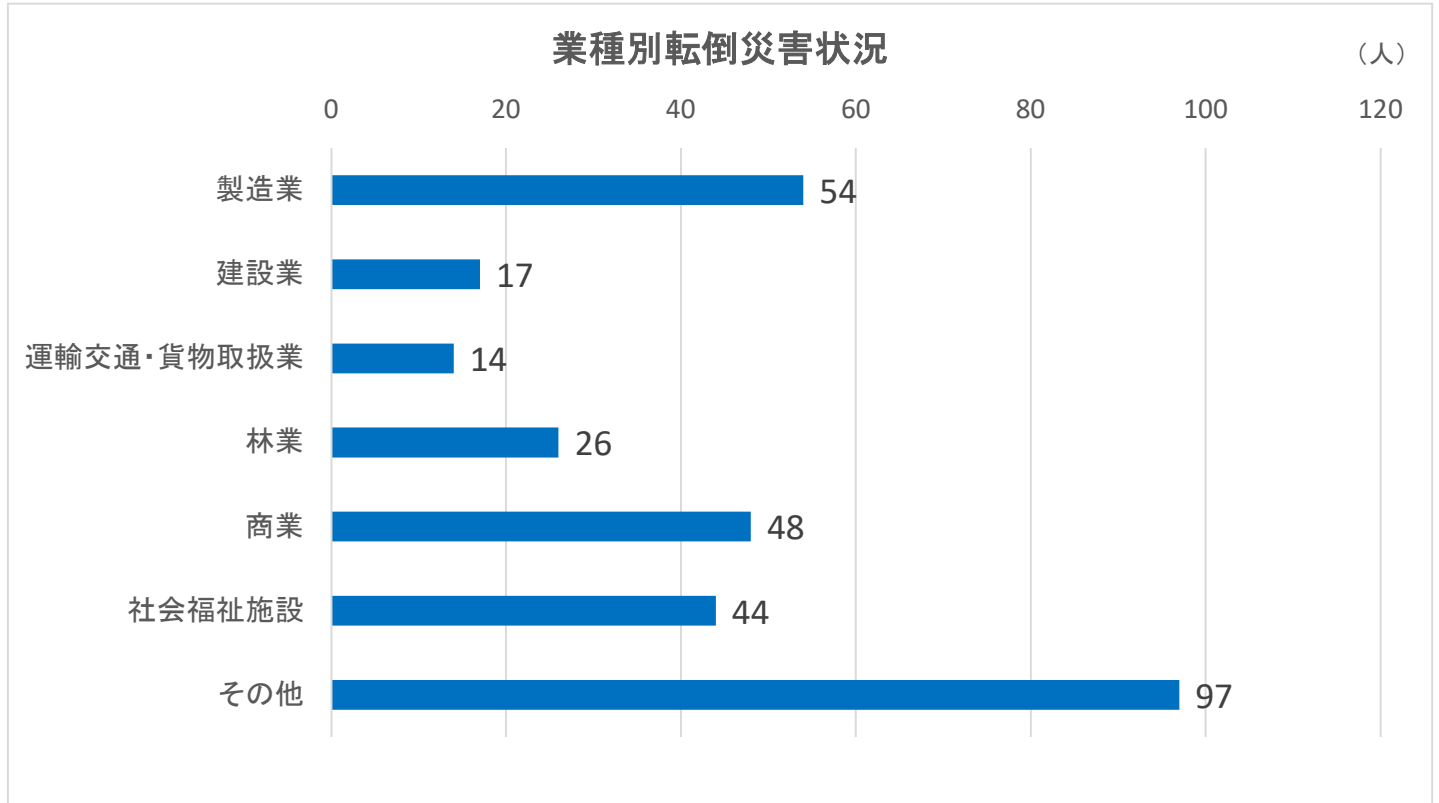
年代別死傷災害発生状況の推移

年代別で見ると、過去10年のどの年においても、「60代以上」、「50代」、「40代」の順番で多い傾向にあり、50代以上が半数を占めています。



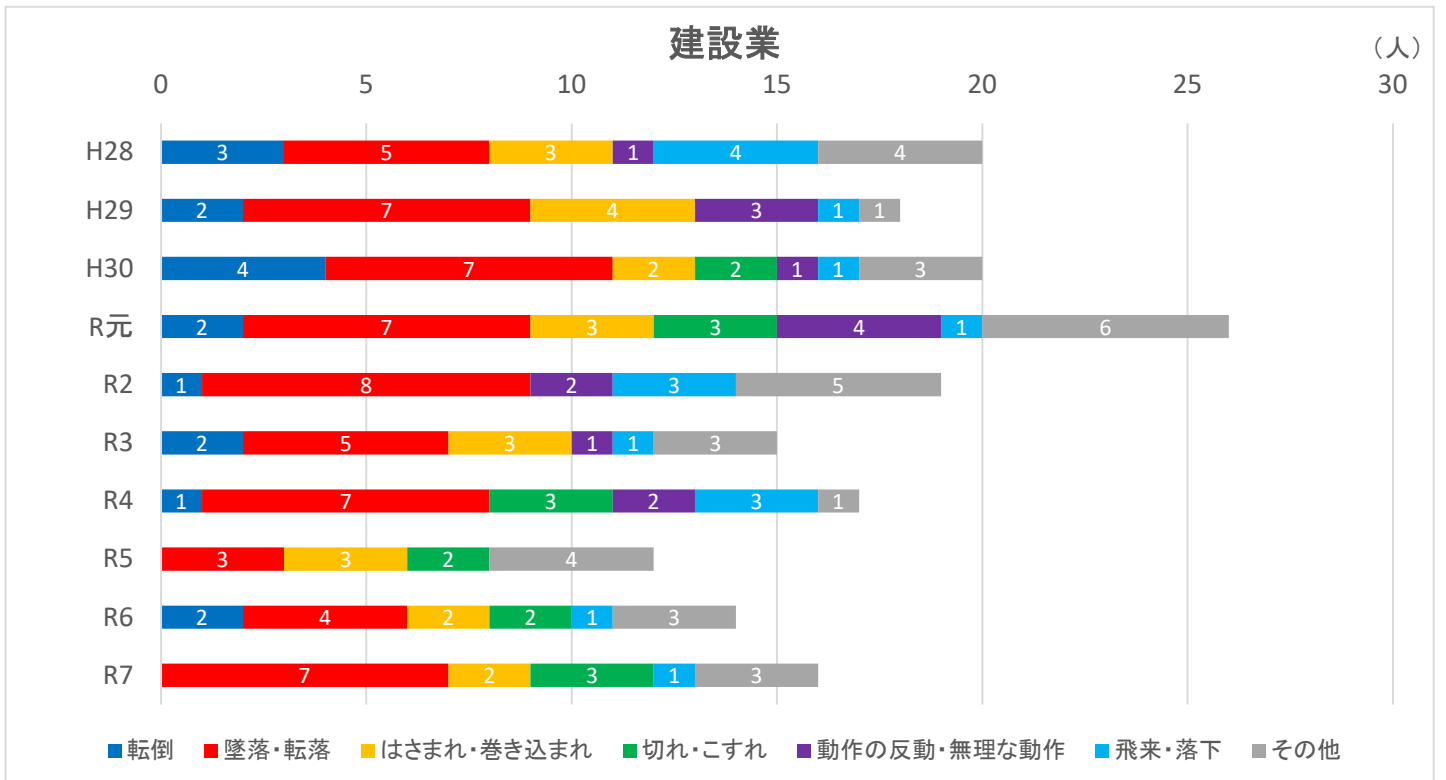
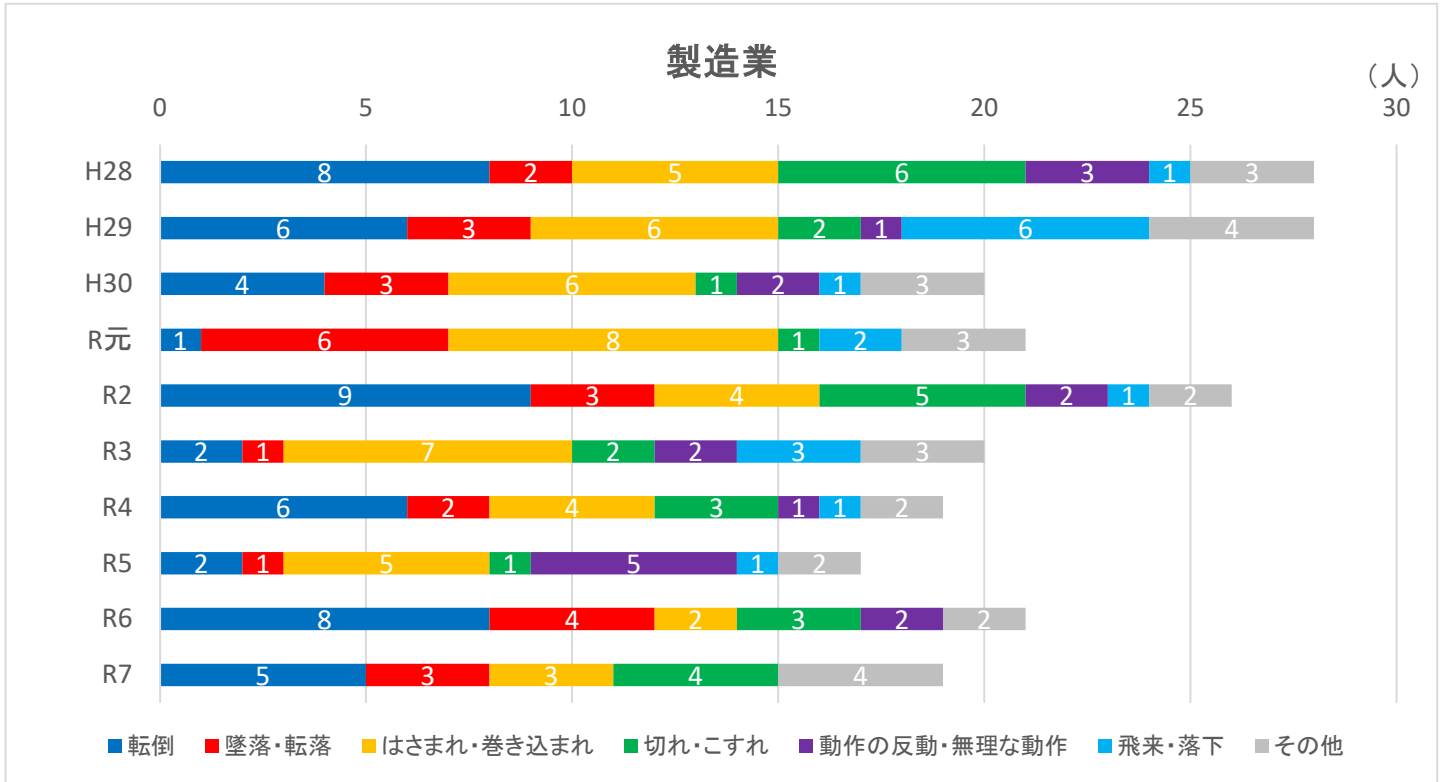
9 業種別・行動災害発生状況

転倒災害は「製造業」、「商業」、「社会福祉施設」、動作の反動・無理な動作は「社会福祉施設」、次いで「商業」に多く発生しています。



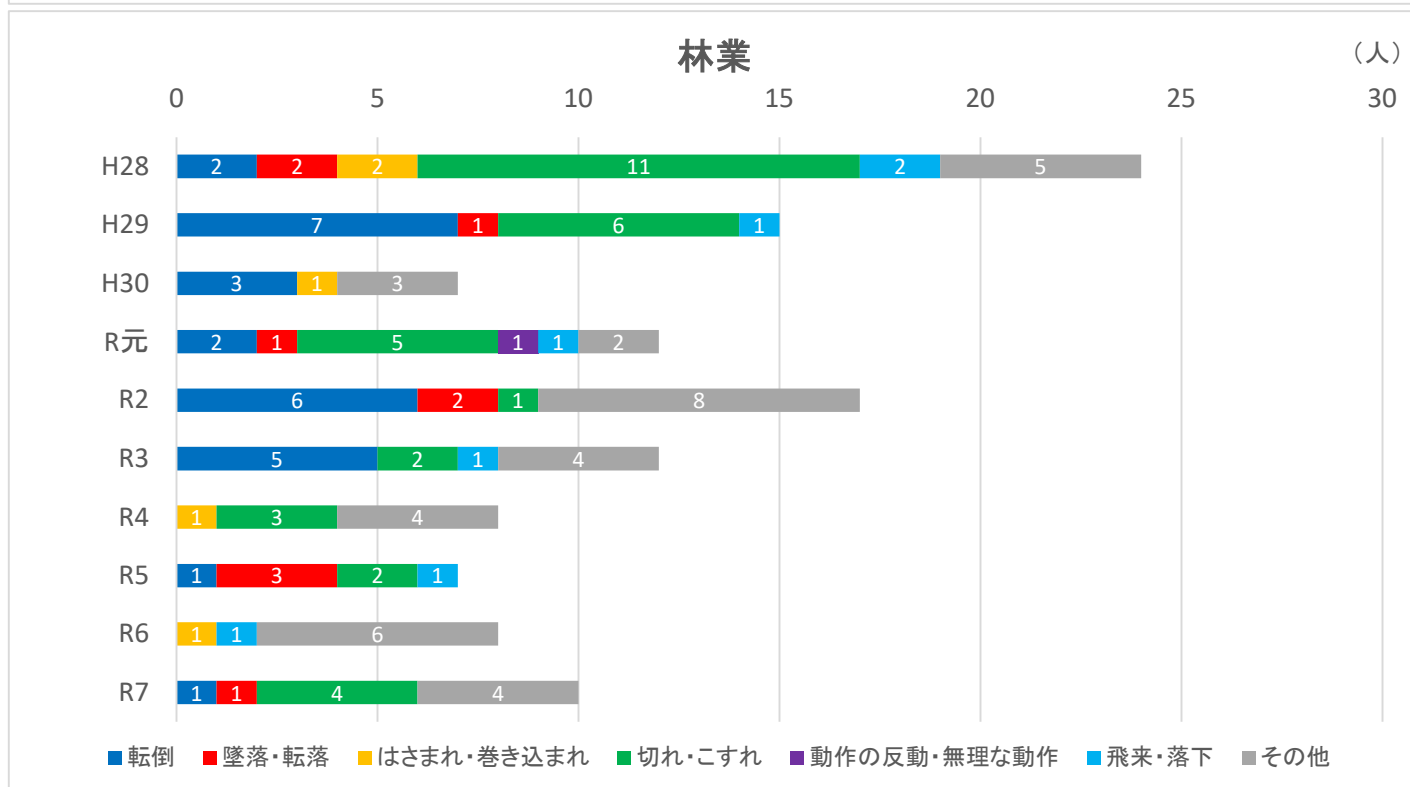
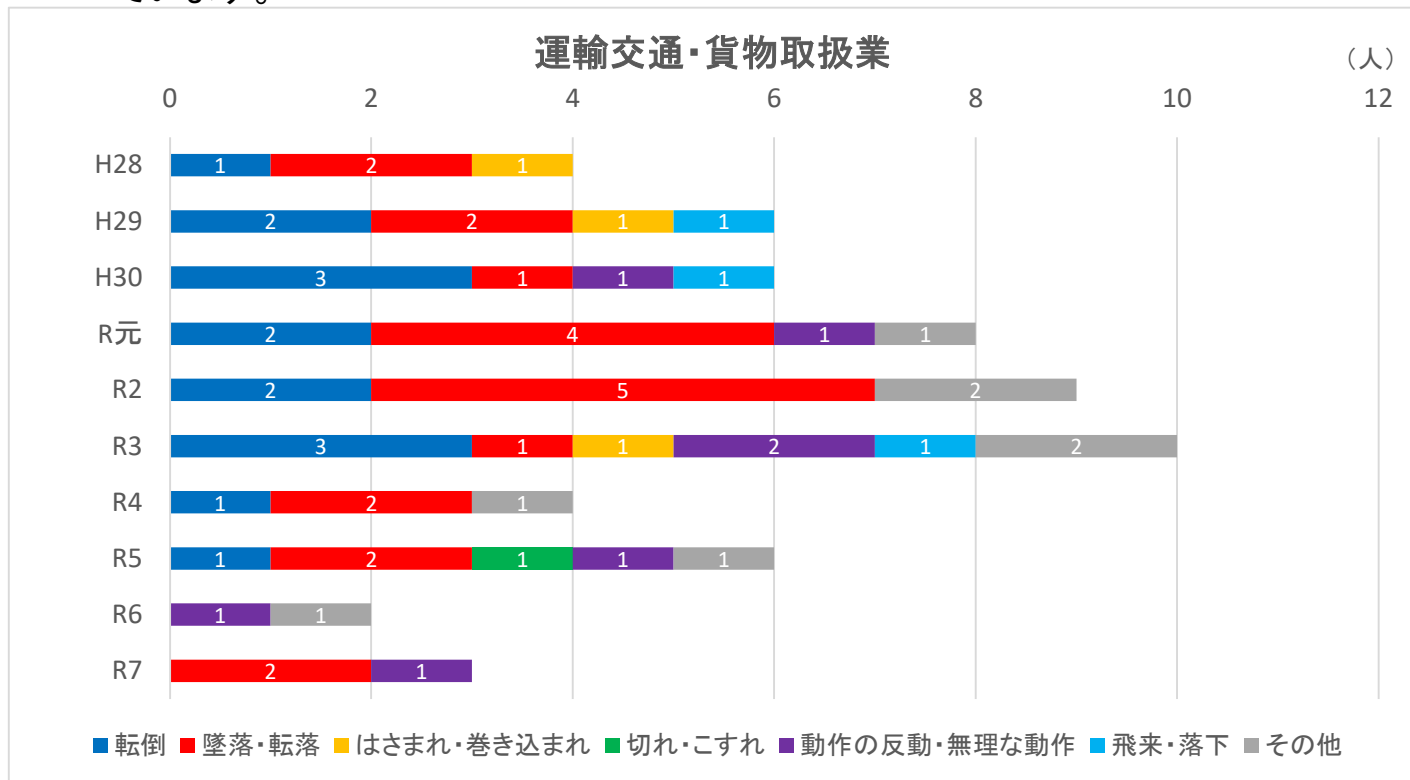
10 業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移 ①

製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が多く発生していますが、近年は転倒災害が最も多い状況にあります。建設業では、毎年「墜落・転落」が最も多く発生しています。



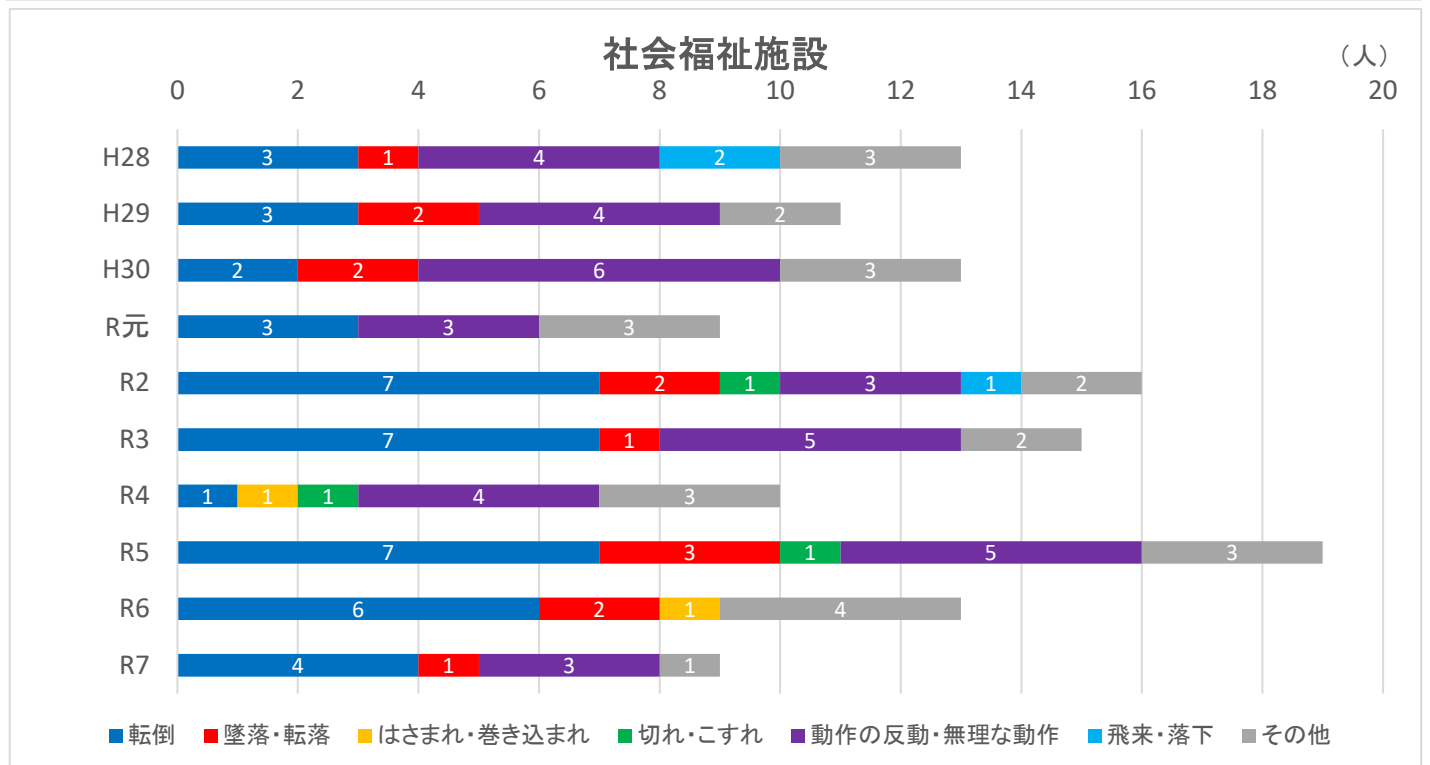
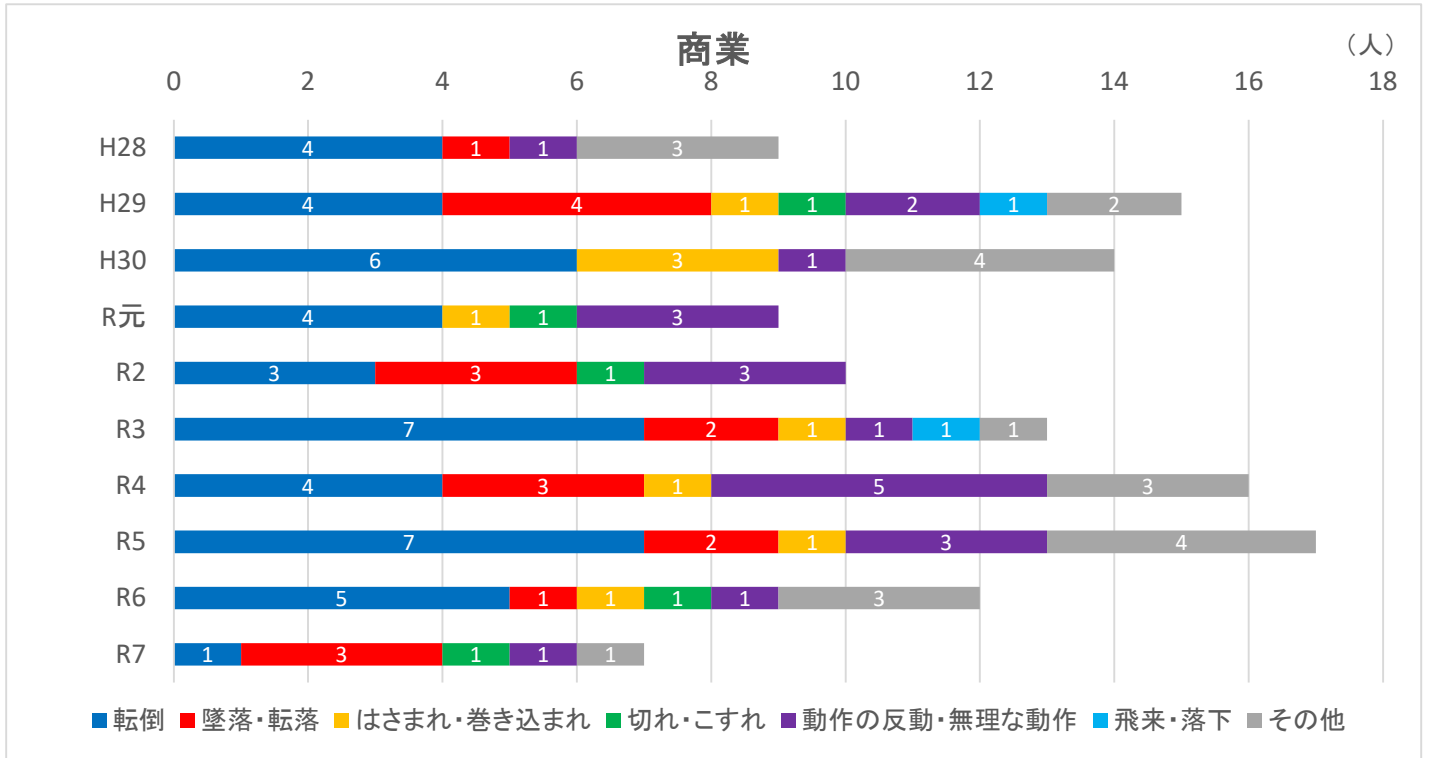
11 業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移 ②

運輸交通・貨物取扱業では「墜落・転落」が、林業では「切れ、こすれ」が多く発生しています。



12 業種別・事故の型別死傷災害発生状況の推移 ③

商業では「転倒」、「墜落・転落」、社会福祉施設では「転倒」、「動作の反動・無理な動作」が多く発生しています。



13 死亡災害発生状況の詳細(三重労働局全体・令和7年)

NO.	県別	発生月	業種	被災者		事故の型	起因物	発生状況
				職種	年齢(年代)			
1	三重県	4月	木造家屋建築工事業	作業員	20代	倒壊・崩壊	建築物・構築物等	木造建物解体工事現場において、車両系解体用機械を用いて解体作業中、建物の一部が崩れ、補助作業を行っていた作業員に激突した。
2	三重県	6月	土木工事業	作業員	70代	激突され	環境等	伐倒木の枝払い作業中、同僚が伐倒した木が、作業員に激突した。
3	三重県	6月	小売業	作業員	60代	墜落・転落	建築物・構築物等	作業員が行方不明となり、その後事業場外部の用水路の溝に倒れているところを発見された。
4	三重県	8月	土木工事業	作業員	20代	激突され	建設用機械	ドラグショベルが乗っていた地山が崩壊したため、ドラグショベルが転落し、下部で作業していた被災者に激突した。
5	三重県	9月	小売業	作業員	60代	交通事故(道路)	乗物	自動車を運転中、カーブを走行していたところ、雨により路面が濡れていたためスリップし、海に転落した。
6	三重県	9月	道路貨物運送業	運転者	50代	交通事故(道路)	動力運搬車	路肩に停車し、自車後部で作業を終え運転席に戻る際、後方から来た大型トラックと接触した。
7	三重県	12月	建築工事業	作業員	60代	倒壊・崩壊	環境等	建物解体工事現場において、掘削した穴の中で基礎杭撤去に係る作業中、土砂が崩壊した。